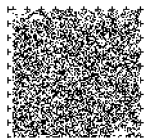


第 3 章 市の目指す姿

- 1 将来像
- 2 基本目標
- 3 成果指標・目標値
- 4 計画の全体像



1 将来像

調布市基本計画に位置付けたスポーツ施策の方向性を踏まえ、以下の将来像の実現を目指すものとします。

生涯にわたって 誰もがスポーツに親しみ 生き生きと過ごせるまち ～スポーツを通じた共生社会の充実～

年齢や障害の有無等を問わず、広く市民がスポーツに親しみ、楽しめる環境を整備します。また、ラグビーワールドカップ 2019 及び東京 2020 大会のレガシーを継承・発展させ、スポーツを通して市民の交流が盛んになるまちを目指します。

この将来像（基本理念）を実現するために、「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」²⁶の理念に基づき、年齢や障害の有無にかかわらず、誰もがスポーツに親しむことができる機会を創出するとともに、市民ニーズを踏まえたスポーツ施設の利用環境の向上、安全で快適な市民のスポーツ環境の整備などを推進します。

とりわけ、東京 2020 大会を契機とした共生社会への理解・関心の高まりを捉え、誰もが「する」「みる」「ささえる」スポーツの価値を享受し、様々な立場・状況の人とともにスポーツを楽しめる環境を充実させることで、スポーツを通じた、共生社会の一層の充実を図ります。

豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言

私たちのまち調布市は、世界的な音楽家や技術者を輩出する大学の立地、映画・映像を制作する企業や、国際的なスポーツ競技施設の集積などの特性を有し、誰もが、生涯を通じて、音楽・演劇をはじめ、映画・美術・伝統芸能・スポーツなど、さまざまな活動を楽しむことができます。

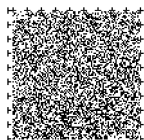
私たちは、この恵まれた環境を活かしながら、子どもから大人まで、女性も男性も、そして障害の有無にかかわらず、全ての市民が、それぞれに応じた活動を通して、豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくりに取り組んでいくことをここに宣言します。



豊かな
芸術文化・スポーツ活動を
育むまちづくり宣言

平成 27 年 11 月 8 日 調布市

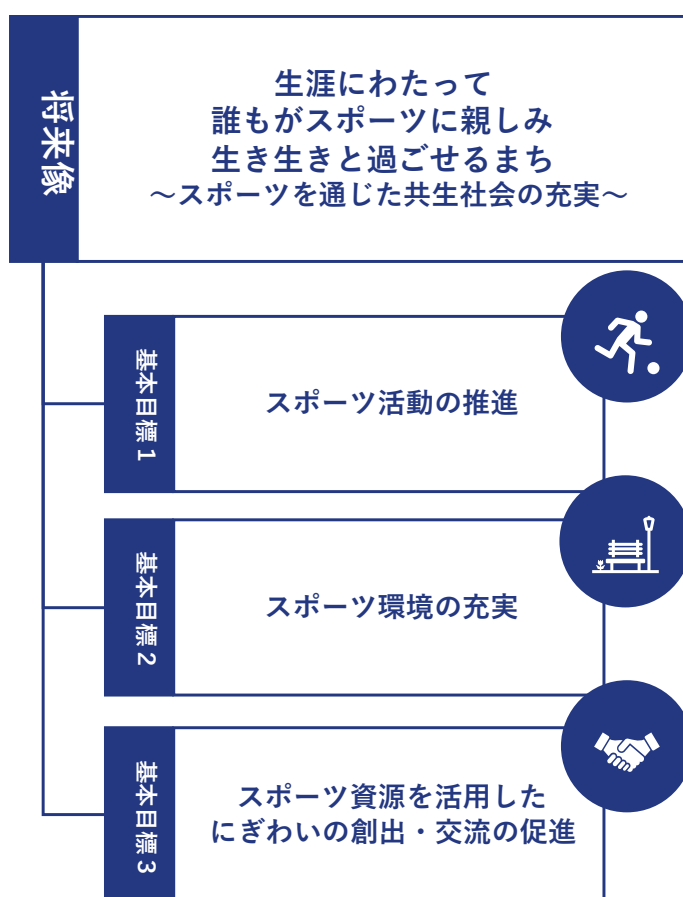
²⁶ 平成 27（2015）年度の市制施行 60 周年の際に行った子どもから大人まで誰もが文化芸術・スポーツ活動を育むことができる場・つながる機会をより一層創出・支援するまちづくりに取り組むための宣言。



2 基本目標

スポーツを楽しむ、喜びを得るといった「スポーツそのものが有する価値」（Well-being を実現する価値）を基本としつつ、スポーツを通じた市民一人一人の健康・体力の維持増進や、人と人とのつながりの強化、地域経済の活性化など、「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」といった側面も踏まえ、これらの『スポーツの力』を全ての市民が享受できるようスポーツ振興に取り組みます。

本計画では、将来像の実現に向け、以下の基本目標を掲げ、誰もがスポーツを楽しみ、喜びを実感しながら、「する」「みる」「ささえる」ことを実現できるよう、スポーツを「つくる／はぐくむ」等の国の掲げる新たな3つの視点を持ちつつ、環境や状況に応じてスポーツ施策を柔軟に見直し、改善を図りながら取組を推進します。



基本目標1 スポーツ活動の推進

<現状>

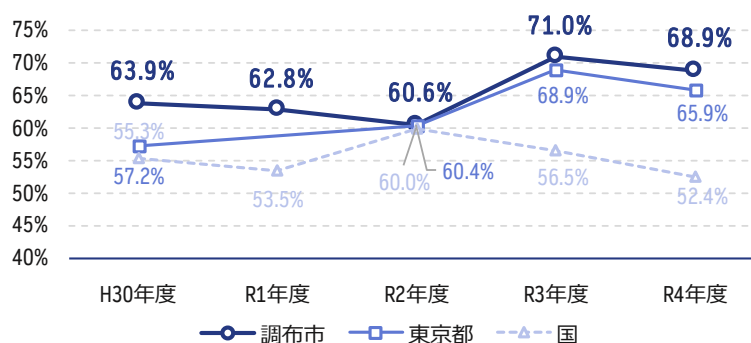
週1回以上スポーツをする市民の割合（スポーツ実施率）の推移をみると、新型コロナウイルス感染拡大の影響により一時減少したものの、その後コロナ禍前よりも高い水準となっています。

年代別にみると、10歳代の実施率が最も高い傾向にあります。その後20歳代から40歳代が相対的に低い水準にあり、50歳代以降は概ね70%以上で推移しています。

スポーツを実施している人は、各年代ともウォーキングや散歩、体操などが多くなっていますが、若い世代では軽い水泳やランニング（ジョギング）が多くなっています。また若者や働く世代、子育て世代のスポーツ実施率に課題があることから、ライフスタイル等に応じた取組が必要です。

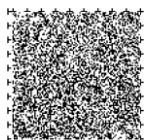
<方向性>

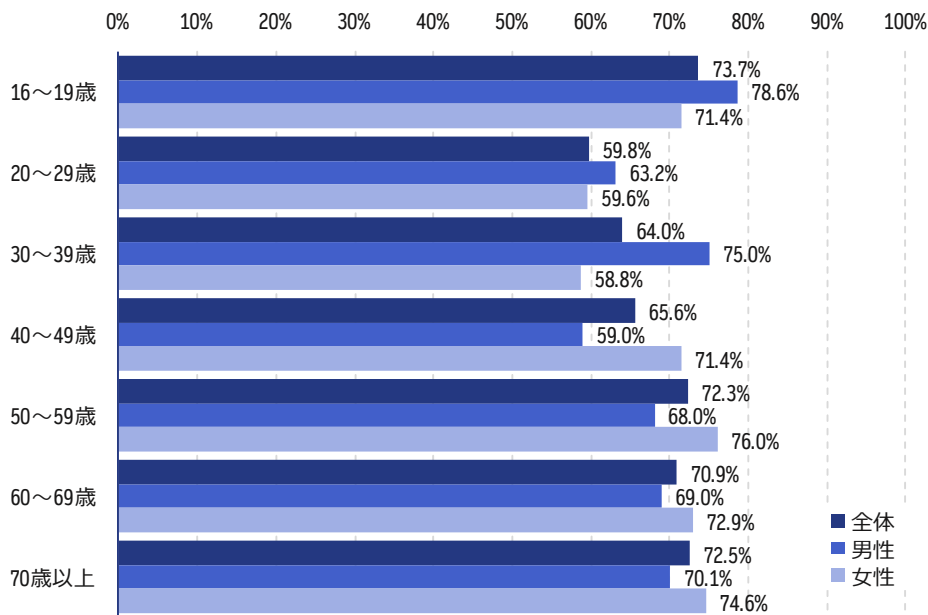
より多くの市民が生涯を通してスポーツに親しむことができるよう、それぞれの年齢や体力等に応じ、各世代のニーズに合わせたスポーツへの参加機会の充実を図り、年齢や性別、障害の有無にかかわらず、誰もがスポーツに親しむことができる取組を推進します。



図表 37 週1回以上スポーツをする人の割合の推移（国・都比較）再掲

出典：調布市市民意識調査（調布市）/都民のスポーツ活動に関する実態調査（東京都）/
スポーツの実施状況等に関する世論調査（スポーツ庁）



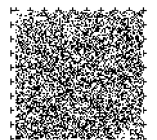


図表 38 (性・年代別) 週 1 回以上スポーツを実施している人の割合 (n=1,181) 再掲
出典：調布市民意識調査 (調布市) 結果より作成

20%以上を着色太字表記

	10代 (n=31)	20代 (n=77)	30代 (n=83)	40代 (n=174)	50代 (n=177)	60代 (n=114)	70歳 以上 (n=137)
ウォーキング等	61.3	72.7	71.1	66.7	74.0	83.3	81.0
体操	45.2	40.3	49.4	45.4	54.2	56.1	54.0
軽い球技	58.1	40.3	16.9	20.7	14.7	15.8	14.6
軽い水泳	22.6	9.1	16.9	18.4	13.6	9.6	3.6
ランニング	38.7	32.5	25.3	22.4	24.9	14.9	7.3
室内運動器具	19.4	23.4	21.7	12.6	16.9	19.3	16.1
ダンス	22.6	7.8	7.2	2.3	4.5	3.5	6.6
サイクリング等	12.9	15.6	10.8	20.1	16.9	13.2	10.2
スキー等	12.9	20.8	6.0	8.0	6.8	5.3	0.0
サッカー等	25.8	6.5	3.6	6.9	3.4	0.9	0.7
テニス等	22.6	7.8	6.0	1.7	4.0	7.9	8.0
卓球	22.6	5.2	3.6	0.6	2.8	2.6	1.5
バレーボール	22.6	6.5	3.6	0.6	1.7	0.0	0.7

図表 39 1年間で実施したスポーツ (種目別・年代別) 抜粋
出典：調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書 (調布市)



基本目標2 スポーツ環境の充実

<現状>

スポーツ活動の拠点となる市立スポーツ施設の利用者数について、平成30(2018)年度は120万人を超える状況でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2(2020)年度は約70万人に減少しました。その後、利用者数は徐々に回復しつつある状況にあります。

<方向性>

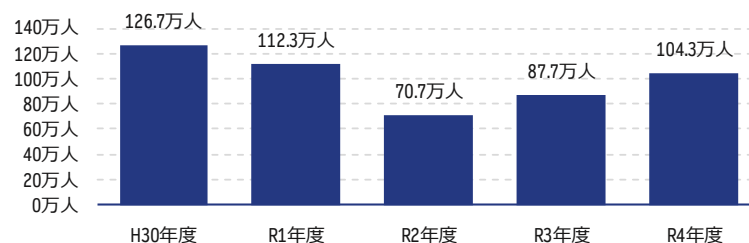
市民が安全で快適にスポーツ施設を利用できるよう、計画的な維持保全・改修を行うとともに、誰もがスポーツに取り組むための場の確保・充実や、部活動の地域連携・地域移行にも対応できるよう地域スポーツ指導者の育成・支援などにより、スポーツ環境の充実を図ります。

30%以上を着色太字表記

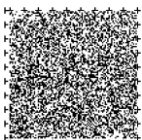
	10代 (n=31)	20代 (n=77)	30代 (n=83)	40代 (n=174)	50代 (n=177)	60代 (n=114)	70歳 以上 (n=137)
道路や遊歩道	45.2	51.9	50.6	59.2	59.3	60.5	44.5
自宅またはその周辺	54.8	54.5	51.8	59.8	59.3	55.3	46.7
広場や公園	38.7	29.9	34.9	25.3	19.2	20.2	19.0
民間のスポーツ施設	25.8	36.4	21.7	27.6	31.6	29.8	19.7
公共のスポーツ施設	25.8	23.4	27.7	22.4	24.3	19.3	28.5
公民館	3.2	0.0	2.4	1.1	0.6	0.9	2.9
コミュニティ施設	0.0	6.5	4.8	2.9	3.4	3.5	6.6
学校(体育施設など)	61.3	15.6	7.2	8.0	7.9	3.5	3.6
職場	0.0	5.2	9.6	5.7	1.7	3.5	0.0
社会福祉施設	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	3.6
自然豊かなところ	12.9	33.8	30.1	32.8	29.9	25.4	16.1
その他	0.0	1.3	3.6	3.4	3.4	0.9	4.4
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.9	2.9

図表40 スポーツをする場所(年代別)

出典: 調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書(調布市)



図表41 市スポーツ施設利用者数(学校施設開放含む)の推移 再掲



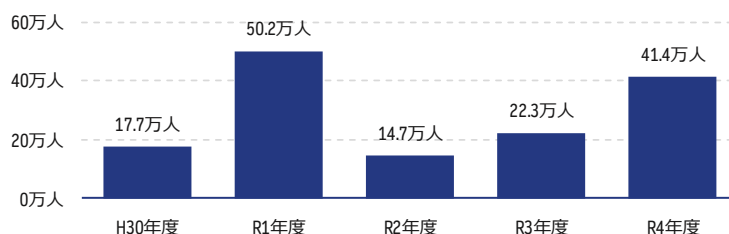
基本目標3 スポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進

<現状>

味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザといった多摩地域の一大スポーツ拠点においては、サッカーJリーグ²⁷やラグビーリーグワン²⁸をはじめ、大規模な国内・国際スポーツ大会や各種イベントが開催され、市内外から多くの人々が訪れており、スポーツによるにぎわいや交流が創出されています。新型コロナウイルス感染症の影響により、交流人口は一時減少しましたが、感染症の5類移行²⁹に伴う各種制限の撤廃等により徐々に回復し、現在は増加を続けています。

<方向性>

世界的なスポーツイベントの開催等を契機に、スポーツを活用した地域振興等への期待が高まっているなかで、トップスポーツチームや武蔵野の森オリンピック・パラリンピックパーク等の豊富なスポーツ資源を活かし、スポーツを核としたまちのにぎわい創出を図るとともに、スポーツを通して市民の交流を促進します。



図表 42 スポーツイベント等における交流人口³⁰の推移

27 日本サッカーの強化と地域スポーツの振興を目的に、1991年に設立された日本初のプロサッカーリーグ。

28 「JAPAN RUGBY LEAGUE ONE」（ジャパンラグビーリーグワン）は、2003年から行われていた「トップリーグ」に代わり、2022年1月に開幕した日本最高峰のラグビーの大会。2023-2024シーズンでは23チームが参加し、3つのディビジョンに分かれて開催されている。

29 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが令和5（2023）年5月8日に2類相当（新型インフルエンザ等感染症）から5類感染症へ移行した。

30 交流人口とは、その地域を訪れる人、または交流する人のこと。味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザなどで実施されるスポーツ大会やイベントの来場者数、市が主催・共催もしくは協力するスポーツ大会やイベントへの参加者数、市と連携するトップスポーツチームの味の素スタジアムにおける観戦者数等を元に集計。



3 成果指標・目標値

(1) 成果指標・目標値

本計画における目指す姿の達成度合いを図る成果指標として、以下の3つを定めます。

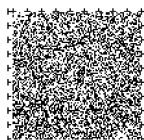
基本目標	成果指標	現状値(R4)	目標値(R12)
スポーツ活動の推進	週1回以上スポーツをする市民の割合	68.9%	▶ 70%
スポーツ環境の充実	市スポーツ施設利用者数 (学校施設開放含む)	104.3 万人	▶ 130 万人
スポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進	スポーツイベント等における交流人口	41.4 万人	▶ 50 万人

図表 43 成果指標

(2) 成果指標の考え方

- ① 週1回以上スポーツをする市民の割合
毎年実施している市民意識調査により、週1回以上スポーツをする市民の割合を把握します³¹。なお、本計画が、スポーツ基本法における「地方スポーツ推進計画」としての位置付けであることを踏まえ、国や東京都の目標値である70%以上を目標値としました。
- ② 市スポーツ施設利用者数
市立スポーツ施設の利用者数（学校施設開放含む）を実績報告により集計します。
- ③ スポーツイベント等における交流人口
味の素スタジアムや武蔵野の森総合スポーツプラザなどで実施されるスポーツ大会やイベントの来場者数、市が主催・共催もしくは協力するスポーツ大会やイベントへの参加者数、市と連携するトップスポーツチーム（FC東京、東芝ブルーパズ東京、東京サントリーサンゴリアス）の味の素スタジアムにおける観戦者数等を集計します。

31 毎年実施している「調布市民意識調査」の結果を活用



4 計画の全体像

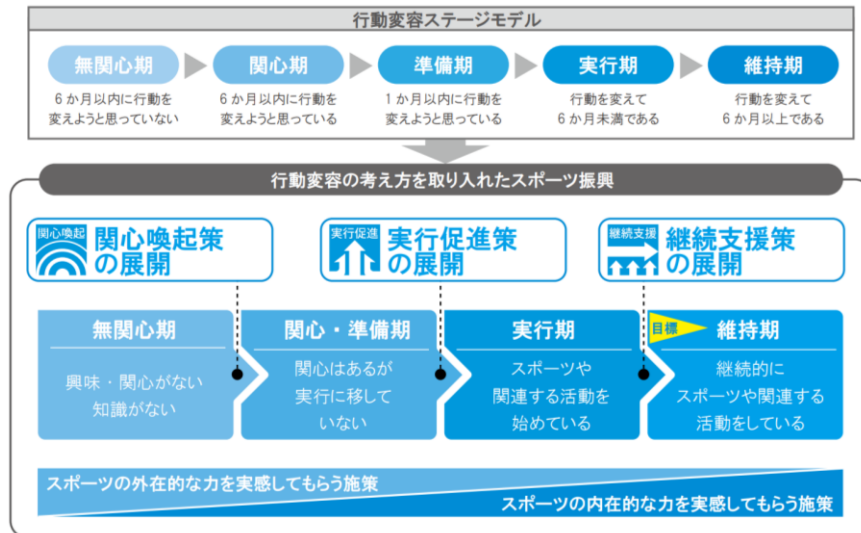
3つの基本目標とそれに紐づく基本施策は、それぞれが完全に独立したものとして捉えるのではなく、相互に密接に関係し合うため、関連する分野や施策が横断的に関わり合い、スポーツ推進に携わる各主体が連携・協働して取り組みます。

基本施策	区分			ステージ		
	する	みる	ささえる	関心喚起	実行促進	継続支援
基本目標1 スポーツ活動の推進						
スポーツをはじめる機会の創出	○			○	○	
地域における子どものスポーツ機会の確保と体力向上	○			○	○	○
ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	○				○	○
障害の有無にかかわらずスポーツ振興	○			○	○	○
スポーツの支え手の育成・支援			○		○	○
基本目標2 スポーツ環境の充実						
スポーツ施設の整備	○				○	○
スポーツ施設の効率的かつ効果的な維持管理・運営	○				○	○
スポーツに取り組むための場の確保・充実	○				○	○
地域スポーツ指導者の育成・支援			○		○	○
スポーツに関する情報発信の充実	○	○	○	○	○	○
基本目標3 スポーツ資源を活用したにぎわいの創出・交流の促進						
地域ゆかりのアスリートの支援	○	○	○	○	○	○
トップスポーツチーム等との連携によるスポーツ振興等の推進	○	○	○	○	○	○
多摩地域の一大スポーツ拠点を活用したスポーツ振興等の推進	○	○	○	○	○	○
大規模スポーツイベントのレガシーの活用	○	○	○	○	○	○



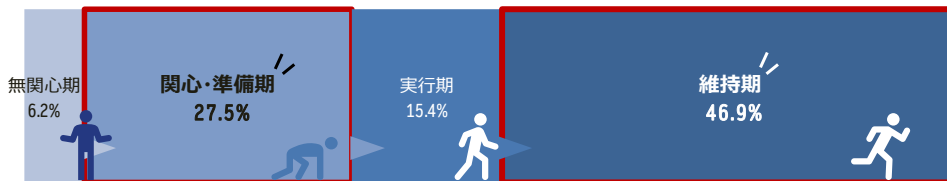
行動変容ステージモデル

行動変容ステージモデルとは、運動をはじめ様々な健康に関する行動を把握するための考え方であり、人が行動を変えて新たな習慣が定着していく過程には、無関心期、関心期、準備期、実行期、維持期という5つのステージを経過していくという考え方です。東京都スポーツ推進総合計画でも取り入れられています。



図表 44 行動変容ステージモデル
出典：東京都スポーツ推進総合計画

週1回以上スポーツをする市民の割合（スポーツ実施率）向上に向けた着眼点としては、関心・準備期層への実行促進策の展開がポイントとなります。また、スポーツ実施率を下支えするボリュームゾーンである維持期層の人々が今後も活動を続けていくための施策についても、継続的に展開していく必要があります。



図表 45 スポーツに対する市民の意識・行動の分布
出典：調布市民のスポーツ活動に関する実態調査報告書（調布市）

